

第227話 小塩御福田田植踊 その2 中山町歴史散策

田植踊りの当日は、床の間に葉山大権現の掛図を掛け、お神酒と御福田を供え、準備が整うとお葉山坊を招きます。お葉山坊は、案内役を先に立て、若党を連れ、法螺貝を吹いて村に降りてきます。昔は葉山修験者でしたが、今は村の若者が選ばれて臨時のお葉山坊となっています。服装は紫の法衣に鈴掛、頭に兜巾をかぶり高下駄（昔は一本朴^{ほんぼく}歯^は）、錫杖^{しやくじょう}を左手に、右手に法螺貝を持ちます。若党は法被に股引、白緒の文字笠をかぶり、高下駄ばき、虫除け札の入った状箱を持ちます。案内役は、羽織袴姿に高下駄ばき。こうして一座の衣装が揃います。

五穀豊穰祈願は祭壇の前にお葉山坊、その後若党と案内役、ヤドの主人（今は代表者）が並び、お葉山坊は法螺貝を吹き、祭文を唱えます（祭文は簡略化されています）。

祭文が終わると、状箱から虫除け札を取り出しヤドの主人（代表者）に授けます。こうして儀式が終わると主人（代表者）は朱塗りの大杯にお神酒を注ぎお葉山坊に勧めます。お葉山坊は一気に飲み干し、そして、案内役を先頭に次の家に回って行きます。玄関を出るとすれ違いに田植踊りの一団が繰り込んで来ます。

御福田の意味は神餅で、村中から集めた餅米をヤドで別火で蒸かし、水垢離^{みづかり}で潔斎した裸の若者の手で搗き、小モチに丸められ、神前に供えられます。モチは神聖な神の食物として昔から尊ばれてきました。小塩では、この取りモチを御福田と呼んでいます。御福田の語意は、モチのことを昔「フクデ」と呼んだことから、それに嘉字の御福田を当てたという説もありますが、この語は各地に分布しているところを見ると、単なる方言とはいえないところもあります。正月神に供える取りモチを「お供え」というように、作神に供える取りモチを特に「お福田」と呼び、災いを祓い、福を呼ぶことを願ったものと考えられます。お福田の「田」は米作の母体であり、田の神在ります所であるので、特に敬意を込め「福田（フクデ）」としたのだと推測されます。

語句の説明
鈴掛…修験者が衣の上に着る麻製の法衣。
潔斎…神事などの前に沐浴などして心身を清めること。
嘉字…縁起のよい字。

※中山町史 中巻 第10章第4節「民俗芸能と娯楽」から

私たち地域おこし協力隊です！ No.93

田んぼに水が張られ水面に真っ青な空が映されて、それはそれは素敵な風景を見ることができる中山町。日本らしい季節が次々と移り変わっていくのを五感で体感しています。

今年の春は『ギンボ』という野菜を初めて知りました。販売店の方に色々とレクチャーしていただき購入。火を通して『お浸し』と『鯖の水煮缶と一緒に煮る』献立にしました。ぬめりがあってびっくりした～。予想をはるかに超えた食感！美味しくって初体験で沼りました。来年また食べるのが楽しみです。

栃木県は海なし県。私は新鮮な魚をさばいて食べるという暮らしはしていませんでしたが、『さがんぼ』や『もろ』などサメ科の魚が切り身で販売されており、砂糖醤油で味付けし、煮て食べていました。

私は町外の方へのお土産として特産品ブランド『北前芋煮』を持っていくこともあります。棒だらと里芋のコラボ。さっぱりとしていて後味も良く、煮汁は『滋味』な感じで疲れているときに食べるとホッとするような、ココロが落ち着くような…そんな気がします。

芋煮会発祥の地と共に中山町『北前芋煮』は町外、県外の方々に知ってほしいある意味『幻の食文化』だと思います。



阿部美恵子

出身地：栃木県鹿沼市
趣味：高校野球観戦

●協力隊への問い合わせ先● 阿部 ☎662-4271（総合政策課）